



▲ 優勝した只見剣道スポーツ少年団の皆さん

剣 只見剣道スポーツ少年団 南会津支部大会優勝

6月15日に伊南武道館で開催された第66回福島県総合体育大会スポーツ少年団大会剣道競技南会津支部大会で只見剣道スポーツ少年団が優勝しました。

優勝した只見剣道スポーツ少年団の皆さんは8月11日に郡山市で開催される福島県大会に出場されます。

只見ご当地グルメで応援! 見高校野球部にうちわ300枚を寄附

マトンケバブカフェでは、高校野球福島県大会に出場する只見高校野球部の皆さんの応援に使って頂きたいという事で、うちわ300枚を作成し7月12日にマトンケバブカフェ店長の目黒道人さんから只見高校野球部キャプテンへうちわが手渡されました。



▲ うちわを受けとる野球部キャプテンとマネージャー

ソ 朝日スポーツ少年団 フットボール 南会津西部地区優勝



▲ 優勝した朝日スポーツ少年団の皆さん

7月13日に南会津町で開催された幸楽苑カップ・白獅子旗争奪第36回福島県児童ソフトボール大会南会津西部地区大会で朝日スポーツ少年団が優勝しました。優勝した朝日スポーツ少年団は8月10、11日の両日に郡山市で開催される福島県大会に出場します。



▲ 楽しい交流会となりました

長 あさひヶ丘で交流 浜地区お楽しみ会

今回で19回目を迎えた長浜お楽しみ会は、あさひヶ丘で7月15日に行われ、デイサービスを利用されている方とお話やゲーム、歌などの交流をして参加者は楽しい時間を過ごしました。近く住みながらあさひヶ丘に行った事が無かった人もおり喜んでおられました。

「アメリカ合衆国東部のブナ林の生態」



只見町ブナセンター

7月7日（日）、只見町ブナセンターにおいて、ペンシルバニア州立大学森林資源学部のマークD. エイブラム教授を講師に、北アメリカのブナ林の生態について講演が行われ、町内外から多くの参加者がありました。

エイブラム氏はまず、アメリカブナと日本のブナには、どのような違いがあるのか、その特徴と類似点を説明されました。

一番の違いは、アメリカブナに根萌芽（ルートサッカー）が見られるということです。

アメリカでは、歴史的に非常に多くの山火事が起きています。樹皮の薄いブナは火に弱いため、樹幹が火事でダメージを受けると、地下茎から新しい芽を出します。これを、根萌芽（ルートサッカー）と呼び、日本のブナには見ることができません。

次に、アメリカブナ林の特徴として、植生が貧弱であるというお話がありました。単一優占樹種として、しばしばブナの純林が形成されるそうです。耐陰性の高いブナは、他の樹木が生育しづらい薄暗い林床でもよく育つため、より老齢の森林でその高い割合を占めます。

植生が貧弱となる理由の一つとして、シカの個体数が増えていることも挙げられます。日本でも全国的な問題になっているシカの食害により、林床の植物が根こそぎ食べられてしまうということでした。

ペンシルバニア州では、1haあたりに1頭以上のシカが居り、ブナの実生だけでなくブナの種子なども食べてしまうため、更新稚樹がほとんど見られないといえます。

ニューヨーク州では、試験的に高さ3mのシカの防護柵を設置し、森林の更新への影響を調査しているそうです。その結果、防護柵の内側では植生が回復し、樹木の更新にも効果があるということ

がわかりました。しかし、この方法はとてもお金がかかるそうです。

シカの食害のほか、アメリカブナでは、凍裂、長期の洪水による根ぐされ、ブナ樹皮病、ブナノキクイムシやカイガラムシなどが伝播する菌類による枯死被害が、大きな問題となっている事も紹介されました。

アメリカブナは、家具、床材、化粧版、枕木などに利用されています。材が曲げ加工しやすい利点があり、またアメリカでは、近年、明るい色の材を好むようになってきたということで、材としての価値が高くなったというお話もありました。

ここ只見町では、ブナは薪材・炭などに利用されてきましたが、北アメリカでも、ブナは萌芽性が高く、伐ってもすぐに新しい芽（萌芽枝）が出るので、植民地時代には、日本と同じように薪材として利用されたそうです。

その他、ブナ以外の北アメリカの重要な北方樹種やナラ林における山火事と更新の関係の話がありました。質疑応答では、様々な質問が出され、アメリカブナに対する関心の高さがうかがわれました。英語（簡易通訳付）による公園でしたが、アメリカブナをはじめ、アメリカの北方林のお話を直に聞くことができ、充実した講座となりました。



▲ 講演に聴き入る参加者